

# コロナ禍のもと、国保と介護保険はどうあるべきか!?

たまりに  
たまった

## 基金を取り崩して保険料の引き下げを

新型コロナウイルスで厳しい暮らしが続いています。市民の命を守ることを最優先にしつつ、暮らし応援の温かい市政が望まれています。R2年度の決算の中で、国民健康保険と介護保険のことを考えてみます。

### 利用抑制で黒字決算

感染を避けたいということ、病院の受診や介護の利用を手控える傾向が強まりました。

国保の保険給付費は、元年度と比べ2・1億円も減りました。

介護保険では、人手不足による施設の休廃止が顕在化し、サービスの提供がさらに減ることとなりました。当初予算と比べ、介護サービス諸費・介護予防サービス諸費が、あわせて7・4億円も減るのは「異常」というほかありません。

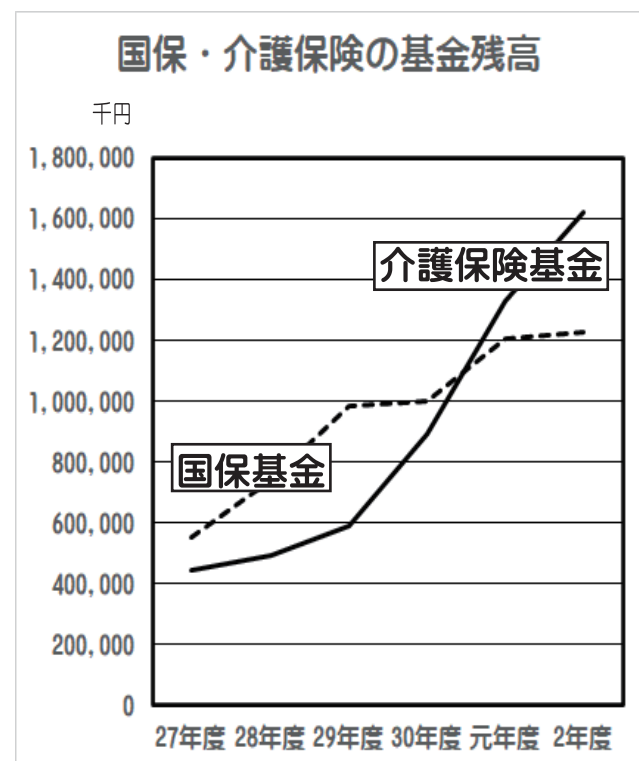


### 膨らみ続ける基金残高

支出が大きく減ったわけですから、最終的には大幅黒字決算。基金（貯金）に相当額を積み立てることになりました。国保は1・5億円、介護保険は6・8億円を年度末に積み立てました。

国保や介護保険は、基金を積み立てることが目的ではありません。大幅に基金が増えたということは、本来、もっと保険料を引き下げることが可能だったことを示しています。

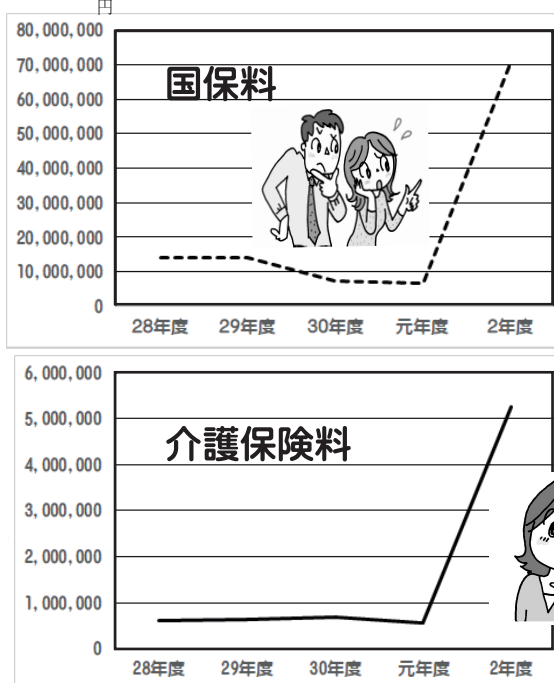
基金が増えたのは2年度だけではありません。ここ最近、ずっと基金が急カーブで増えています。



### 生活苦で減免件数は急増

一方で、コロナ禍で収入が減り、保険料を払えない世帯が増えました。国もこれに对应して不十分な減免の基準を緩和。結果として国保・介護保険ともに、保険料の減免件数・金額が大きく増えました。このグラフを見ただけでも、コロナ禍での保険料負担の重たさを伺い知ることができます。

国保料、介護保険料の減免金額



日本共産党は、今後とも、基金を活用しての国保料、介護保険料の引き下げを強く求めていきます。



2021. 10. 03

村上かずしげ通信

発行 日本共産党市議団 23-5212